

第2期

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)

令和3(2021)年度評価報告書(案)

令和4年 月

1. 総合戦略の概要	4
2. 評価の趣旨及び方法	9
3. 具体的施策の評価	12
基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト	13
1 水とみどりを育む取組みの推進	14
2 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進	15
3 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進	16
4 災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進	17
基本目標1 達成状況の総括・外部評価	18
基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト	20
5 安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進	21
6 秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進	22
7 次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進	23
8 市民総ぐるみによる学校給食の推進	24
基本目標2 達成状況の総括・外部評価	25
基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト	27
9 温泉を生かしたにぎわい創造の推進	28
10 学生の力を生かしたにぎわい創造の推進	29

1 1	文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進	3 0
1 2	丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進	3 1
	基本目標3 達成状況の総括・外部評価	3 2
	基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト	3 4
1 3	表丹沢魅力づくり構想の推進	3 5
1 4	地域特性を生かした企業誘致の推進	3 6
1 5	新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進	3 7
1 6	国道246号バイパス（厚木秦野道路）早期全線事業化・整備の促進	3 8
	基本目標4 達成状況の総括・外部評価	3 9
	基本目標5 新たな日常創造プロジェクト	4 1
1 7	新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進	4 2
1 8	デジタル化の推進	4 3
	基本目標5 達成状況の総括・外部評価	4 4
	横断プロジェクト	4 6
	移住・定住活性化	4 6
	横断プロジェクト 達成状況の総括・外部評価	4 7
4.	外部評価の総括	4 9

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)については、国からの要請に基づき、内部における進行管理の妥当性、客観性を担保するため、平成29年度から外部評価を取り入れたものです。

外部評価を行う秦野市行財政調査会は、「秦野市附属機関の設置等に関する条例」に規定されている市長の「附属機関」です。

秦野市行財政調査会は、市長からの諮問に基づき、総合戦略及び総合計画の進行管理、評価に関する事項を担っています。

外部評価にあたっては、秦野市総合計画はだの2030プラン前期基本計画(以下「総合計画前期基本計画」という。)において、リーディングプロジェクトとして位置づけた5つのプロジェクトと1つの横断プロジェクトを、第2期総合戦略の基本目標としていることから、第2期総合戦略と総合計画前期基本計画を同時に評価しました。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

総合計画との一体的な取組みを推進

総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、国の人口ビジョン及び総合戦略を勘案し、「秦野市人口ビジョン(令和3年3月改定)」で示した将来展望や目指すべき方向性の実現に向け、重点的に取り組むプロジェクトをまとめたものです。

第2期総合戦略では、総合計画前期基本計画のリーディングプロジェクトを基本目標に位置づけ、総合計画前期基本計画と一体的に取り組むことにより、地域資源を生かした活力あるまちづくりを目指しています。

また、計画期間についても、総合計画前期基本計画との整合を図るため同一の期間とし、令和3年度から令和7年度までの5年間としています。

総合計画前期基本計画
リーディングプロジェクト
『“住んでみよう・住み続けよう”
秦野みらいづくりプロジェクト』



第2期総合戦略
基本目標(プロジェクト)

人口減少と地域経済縮小の克服

地域資源を生かした活力あるまちづくりを推進するための施策として基本目標を定め、基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向とその評価指標を設定しています。

1 基本目標(プロジェクト)

国の第2期総合戦略が定める政策分野を勘案して、市の第2期総合戦略における政策分野を定め、5年後の基本目標(実現すべき成果に係る数値目標KGI※1)を設定しています。

2 講ずべき施策に関する基本的方向

基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向を示しています。

3 具体的な施策と客観的な指標

基本的方向に沿って、具体的な施策を記載するとともに、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標(KPI※2)を設定しています。

※1 KGI:Key Goal Indicatorの略称。目標を達成するための指標。

※2 KPI:Key Performance Indicatorの略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

PDCAサイクルを重視した効果検証

「まち・ひと・しごと創生」においては、若者や女性への支援、そしてまちづくりまで多岐にわたる分野について、横断的に取り組むことが求められています。

そのため、事業の推進にあたっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組むことが必要です。

計画の進捗状況については、基本目標及び施策ごとにそれぞれ目標を設けるとともに、評価・検証し、必要に応じて取組内容を見直すPDCAサイクルを重視して、その実効性を高めます。

	目標の設定内容	効果検証時期	効果検証の方法
基本目標	実現すべき成果に係る数値目標(KGI)	計画期間終了後	有識者等による外部評価を経て、必要に応じて戦略の見直しを行う
施策	重要業績評価指標(KPI) ※ 検証による見直しもあり得る。	毎年	

基本目標1
健康で安心して暮らせるプロジェクト

- 水とみどりを育む取組みの推進
- 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進
- 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進
- 災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進

基本目標2
未来を拓く子育て・教育プロジェクト

- 安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進
- 秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進
- 次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進
- 市民総ぐるみによる学校給食の推進

基本目標3
小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

- 温泉を生かしたのにぎわい創造の推進
- 学生の力を生かしたのにぎわい創造の推進
- 文化財・桜・湧水を生かしたのにぎわい創造の推進
- 丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたのにぎわい創造の推進

基本目標4
新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

- 表丹沢魅力づくり構想の推進
- 地域特性を生かした企業誘致の推進
- 新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進
- 国道246バイパス(厚木秦野道路)早期全線事業化・整備の促進

基本目標5
新たな日常創造プロジェクト

- 新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進
- デジタル化の推進

横断プロジェクト
移住・定住活性化

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

第2期戦略初年度の評価

昨年度は、第1期総合戦略(計画期間:平成27(2015)年度～令和2(2020)年度)の計画期間終了後の評価となったため、基本目標単位でKGIの達成状況を検証し、市による総括を行いました。また、市による達成状況の総括に対する外部評価を行い、「市の総括は妥当である」との評価を得ました。

今年度は、第2期総合戦略初年度の評価として、基本目標に基づく重要業績評価指標(KPI)の達成状況の評価を行いました。

1 基本的背景

総合戦略では、国からの通知等により、学識経験者等の第三者の検証を求め、達成状況の評価の透明性、客観性及び公正性を確保することが必要とされています。

2 行政需要への的確かつ柔軟な対応

総合戦略で掲げた施策について、その進捗状況の効果や課題を検証し、必要な見直しを図るため、PDCAサイクルを構築し、変化し続ける行政需要に的確かつ柔軟に対応します。

3 市民等との共有

事業の推進にあたっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組んでいくことが必要であるため、評価結果を公表し市民等と共有します。

1 達成状況について

市では、各部局において、総合戦略の重要業績評価指標(KPI)単位の達成状況を検証したうえで、基本目標単位の達成状況を総括しました。

なお、達成状況は、KPIごとに設定している数値目標の達成率を基準として、右表の区分に応じたものとしています。

2 外部評価について

基本目標ごとに、市の達成状況の総括の内容が妥当であるか否かの評価を行いました。

【達成状況の区分】

区分		評価の考え方
A	順調に進んでいる	数値目標を達成しており、施策の取組みが順調に進んでいるもの
B	概ね順調に進んでいる	数値目標を概ね達成しており、施策の取組みが概ね順調なもの
C	やや遅れている	数値目標の達成に向けて、施策の取組みがやや遅れているもの
D	遅れている	数値目標の達成に向けて、施策の取組みが遅れているもの

※ KPI単位の達成状況の区分は、次の達成率に応じた区分としています。

- 数値目標の達成状況が100%以上 ⇒ A評価に区分
- 数値目標の達成状況が75%以上100%未満 ⇒ B評価に区分
- 数値目標の達成状況が50%以上75%未満 ⇒ C評価に区分
- 数値目標の達成状況が50%未満 ⇒ D評価に区分

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

秦野らしい豊かな自然環境の中で、誰もが健康で生き生きと活躍し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 監視基準井戸の地下水位	121.8m	▶	121.6m
.....			
■ 平均自立期間 (日常生活動作が自立している期間の平均・暦年)	男性 83.12歳(R2) 女性 85.79歳(R2)	▶	男性 83.92歳 女性 86.28歳
.....			
■ 秦野警察署管内刑法犯認知件数(年間)	650件	▶	620件

概ね順調に進んでいます。

市民共有の財産である水とみどりを守り育て、生かすことにより、恵まれた自然環境と共生した秦野らしさのあるまちづくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
水源の森林エリアにおける森林整備(奥山を除く)面積	標高が概ね300メートルを超える水源エリアでの適正な森林管理を促進する	125ha	25ha	31.45ha	125.8%	A	<ul style="list-style-type: none"> 森林所有者と締結した「協力協約」に基づく森林整備 水源林管理道の整備
くずはの家における自主事業の実施回数	生物多様性、自然環境の現状について学び、その保全・活用に対する意識の向上を目指す機会として自主事業を実施する	88回	82回	102回	124.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察会の実施 自然保護及び緑化の推進に関する普及啓発 指導員養成講座の実施 エコスクール事業の講師
秦野市の二酸化炭素排出量	秦野市地球温暖化対策実行計画において掲げた目標値(2013年度比・2030年度46%削減)を目指す	720千トン	826千トン	735千トン (R元実績)	112.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> 交通スリム化懇談会、商工会議所常議員会、法人市民相談会で「はだの脱炭素コンソーシアム」の構築に向けた説明を実施 緑のカーテン事業の実施
植樹祭、下草刈、県民参加の森林づくりなど森林整備事業への市民参加回数	市民主体の植樹・育樹等を通じた市民による森林づくりを推進する	1,150人	1,050人	534人	50.9%	C	<ul style="list-style-type: none"> 新東名高速道路周辺への植樹 頭高山の草刈り 北小学校での間伐体験 ※ 新型コロナウイルスの影響により規模を縮小して実施したため実績が伸びなかった
秦野名水ロゴマークの使用件数(累計)	「秦野名水」の効果的な普及啓発を図る	160件	115件	136件	118.3%	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等での周知

概ね順調に進んでいます。

人生100年時代を心身共に健康で安心して暮らせるよう、地域医療の充実・強化を図りながら健康長寿に向けた取組みを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B) / (A)	達成状況	R3取組み実績等
未病センター健康相談会における利用者数	身近な場所で自身の健康状態を把握し、その結果に基づき健康づくりをする人を増やす	260人	240人	60人	25.0%	D	※ 新型コロナウイルスの拡大により回数・定員を縮小したため実績が伸びなかった
特定健康検査の受診率及び特定保健指導の利用率	特定検診、特定保健指導の受診率及び利用率の向上による健康長寿に向けた取組みを推進する	40.0% 26.0%	35.7% 18.3%	31.5% 15.1%	88.2% 82.5%	B	・ 集団検診の実施に向けた他市の状況調査、実施内容の検討
「週1回30分以上スポーツ・レクリエーション活動する市民」の割合	各種スポーツ大会の企画・実施を通じた生涯スポーツ活動の普及促進を図る	65.0%	53.0%	38.9%	73.4%	C	・ 上智大学と連携し「はだのプラススポーツフェスティバル」を開催 ・ 「水無川ランニングレース」の開催等 ※ 新型コロナウイルスの拡大によるイベントの中止の影響で実績が伸びなかった
市内の就業看護職員数	医師会との情報共有や支援等を通じた市内で就業する看護職人材を確保する	1,650人	1,550人	1,534人 (R2実績)	99.0% (R2実績比)	B	・ 看護師や助産師の確保に向けた医師会との情報共有

概ね順調に進んでいます。

誰もが住み慣れた地域で、生きがいを持ちながら安心して暮らせるよう、地域における人と人のつながりを大切に、互いに助けあい、共に支えあうまちづくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
地域共生社会の実現に向けた福祉研修の実施回数 (年間)	地域住民相互の支えあいによる共助の取組みの活性化等を通じた「地域共生社会」の実現を目指す	2回	2回	2回	100.0%	A	・相談支援包括推進会議による研修を実施
要介護等認定率	介護予防等の取組みの強化による認定率の上昇抑制を図る	17.0%	14.9%	14.8%	100.7%	A	・地域高齢者支援センターの機能強化に向けた検討 ・課題解決に向けた多職種による地域ケア会議の開催 等
認知症サポーター養成者数	地域・職場・学校等に向けた「認知症への理解を深める普及啓発」によって、市民全体で認知症の人とその家族を支える基盤づくりを目指す	24,000人	16,000人	14,533人	90.8%	B	・認知症サポーター養成講座の開催 ・認知症地域支援推進員研究会の開催 等
住民主体の通いの場への高齢者の参加者数	介護予防に資するサロン活動や体操を継続的に行う住民の通いの場の充実を図る	5,200人	5,000人	3,016人	60.3%	C	・介護予防体操の定期的な実施に向けた支援 等 ※ 新型コロナウイルスの拡大による通いの場の活動休止の影響で実績が伸びなかった

概ね順調に進んでいます。

市民の生命や財産を守り、安全・安心な暮らしを実現させるため、市民、事業者、行政が一体となった地域力や都市の安全性を強化する取組みを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
防災講演会等の参加者数	地域防災体制の整備・強化のための防災講演会等の実施	4,300人	3,930人	2,178人	55.4%	C	<ul style="list-style-type: none"> 地域での防災講演会等の開催 ※ 新型コロナウイルスの拡大により回数・定員を縮小したため実績が伸びなかった
木造住宅の耐震相談会の開催回数(年間)	木造住宅の耐震改修促進のための相談会の実施	12回	11回	11回	100.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> 木造住宅の耐震改修促進のための相談会の実施
管理不全空家の状態が改善された割合	防災、衛生、景観等において周辺の生活環境に悪影響を及ぼすおそれのある管理不全空家の防止解消に向けた対応を図る	70.0%	62.0%	74.0%	119.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> 「空家等の適正管理に関する条例」の施行、運用

市による達成状況の総括 **概ね順調に進んでいる**

重要業績評価指標(KPI)16項目のうち、A評価(8項目)及びB評価(3項目)の合計は、11項目(約69%)でした。

また、C評価となった5項目を含め、人が集うイベントや対面で行う事業の中で、新型コロナウイルスの拡大により中止等を余儀なくされたことで達成率に影響が生じた項目が6項目ありますが、感染症の収束や実施方法を工夫すること等によりイベントや事業が再開されている現状を勘案すると、施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- 秦野市の歴史や潜在的な魅力を継承し、発展させていくという大きなストーリーの中において、市民共有の財産である水とみどりを守り育てるためには、下草刈などの「非常に重要だが地道な取組み」を、より一層推進し、適切に評価することが望まれます。
- 地域防災体制の整備及び強化のための指標は、防災講演会や講習会の参加者数に限定するのではなく、総合防災訓練への市民参加等も反映した施策全体の評価とすることが望まれます。
- 地球温暖化対策として、二酸化炭素排出量の削減は重要ですが、KGIの達成に向けた、より具体的な取組みの過程を評価する指標の設定が望まれます。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

結 婚・妊娠・出産・育児への切れ目のない支援を行い、安心して子育てできる環境を整備するとともに、教育水準の改善・向上や中学校給食の完全実施を中心とした取組みにより、秦野の未来を担う子どもたちの生きる力を育む教育環境づくりに取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 合計特殊出生率	1.12(H30)	▶	1.43
.....			
■ 全国学力・学習状況調査等における集計値 (平均正答率)	60.2%(全国63.8%)	▶	全国平均以上
.....			
■ 全国学力・学習状況調査等における集計値 (学習意欲)	60.4%	▶	68.0%
.....			
■ 全国学力・学習状況調査等における集計値 (非認知能力)	71.2%	▶	81.0%

概ね順調に進んでいます。

周産期医療及び保健体制の整備・充実などにより、安心して妊娠・出産ができる環境づくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っている保護者の割合(3歳6か月児健康検査時調査)	妊娠期から子育て期までの相談体制を整備し、親子の多様性に応じた継続支援の充実を図る	75.0%	68.0%	65.9%	96.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> 産後ケア事業の開始 特に支援が必要な妊婦等に対する関係機関と連携した支援
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合(1歳6か月児健康検査時調査)	少子化・核家族化の進行、地域とのつながりの希薄化による妊産婦やその家族を支える力が弱くなってきている中での切れ目ないきめ細やかな支援を実施する	87.5%	86.8%	80.7%	93.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 集団方式を採っている乳幼児健診で、その特徴を活かした切れ目のない支援の実施

概ね順調に進んでいます。

結婚から育児までの切れ目のない支援により、地域で安心して子育てができる環境づくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
定員超過により保育所等に 入所できない児童の数 (4月1日時点)	仕事と子育てを両立し、安 心して子育てができる環境 づくりにより待機児童の解 消を目指す	0人	0人	4人	55.5%	C	<ul style="list-style-type: none"> ・利用定員の確保 ・私立施設の定員適正化の検討 ・民間保育所等の支援の継続 ※ 達成率は、当初値9人と比較した減少 率で算定
地域子育て支援拠点事業の 箇所数	新たな地域子育て支援拠点 を増やし、子育て支援の充 実を図る	9箇所	9箇所	10箇所	111.1%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援センター開設 (出張形式2箇所)
特に児童虐待のリスクが高 い要保護児童に対する個別 ケース検討会議の開催割合	児童虐待の発生予防と早期 発見・早期対応をも目指し た個別ケース検討会議を開 催する	100%	81.0%	76.0%	93.8%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース検討会議の開催等によ る関係機関との連携・迅速な対応
ひとり親家庭等の保護者の 資格取得後の就職状況	ひとり親家庭の保護者の就 業や就職活動を側面から支 援し、早期自立を目指す	100%	100%	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援教育訓練給付金、高等職 業訓練給付金の支給 ・自立支援員による面接、電話相談 の実施

概ね順調に進んでいます。

子どもたちの新たな学びのスタイルを構築するとともに、次世代の教育を見据えた環境整備により、「はだのっ子」の確かな学力向上に向けた取組みを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
保護者アンケートにおいて、園小中一貫教育が推進されていると回答した人の割合	園小中一貫教育を推進し、教育水準の改善向上のエビデンスとするため、学びの連続性を実感できる体制づくりを推進する	77%	68.0%	0%	0%	D	※ 新型コロナウイルス感染症の影響で保護者アンケートが実施できなかった
学校運営協議会の設置校数	地域とともにある学校づくりに向けた学校運営協議会の設置によりコミュニティ・スクールを推進する	22校	11校	11校	100.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> CSディレクターの配置による学校運営協議会の支援実施 学校向けの研修会を開催 地域学校協働活動推進員との連携
授業でICTを効果的に活用できていると回答した教職員の割合(文科省調査)	学校における働き方改革を含め、教職員がICTの効果的な活用を実感できる体制づくりを推進する	100%	75.0%	77.8%	103.7%	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導者用デジタル教科書の導入 学習支援アプリの試験導入 地方教育アドバイザー派遣制度の導入

概ね順調に進んでいます。

中学校給食の完全実施を契機とし、商業・農畜産業などの地場産業との連携による地産地消や地域に根差した食育の推進により、市民総ぐるみの学校給食を推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
学校給食食材における秦野産野菜の使用割合	対象品目において秦野産野菜の年間総使用量割合の向上を目指す	50.0%	—	32.4%	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 中学校給食における地場産品の活用に関する協定締結 ※ R3年度から中学校給食を開始したが、小中学校給食に提供する秦野産野菜の必要量の確保には時間がかかることから、年度ごとの目標値を設定せず段階的な目標としているため、R3年度達成状況の判定ができない
地産地消応援サポーター登録店舗数	消費、流通、販売面から地産地消推進に参画する登録店舗数の増加を目指す	55店	51店	50店	98.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 市広報による制度周知

市による達成状況の総括 概ね順調に進んでいる

重要業績評価指標(KPI)11項目のうち、A評価(4項目)及びB評価(4項目)の合計は、8項目(約73%)でした。

また、D評価となった項目のうち1項目は、新型コロナウイルスの影響により実施できなかったものですが、既存の取組みに統合するなど、手法の工夫により実施可能となるよう検討を進めていること等を勘案すると、プロジェクト推進への取組みは概ね順調に進んでいます。

外部評価 市による達成状況の総括は妥当です

- 子育てに関する事業では、ICTを活用したオンライン相談等の充実や、産学官の連携による新たな技術・仕組みを取り入れた施策の推進に期待します。
- 保育所待機児童の解消は重要な課題であり、市内全体の定員や入所状況等を踏まえた調整等による目標達成に期待するとともに、関係者の取組みや努力が反映される指標の設定が望まれます。
- 学校給食事業では、コスト面を考慮した経営的な視点も取り入れながら、子供たちの地産地消への理解の促進や秦野の農業への誇りの醸成など教育的な観点(食育)の更なる展開が望まれます。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

「温泉」、「大学」、「まちの中心地、文化歴史」、「表丹沢」など、小田急線4駅それぞれの魅力ある地域資源や特色を生かした、楽しい「まち歩き」の仕掛けづくりなどにより、活力あふれるのにぎわい創造に取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 4駅の乗降客数の合計(1日平均)	123,058人	▶	123,000人
.....			
■ 定住意向 (住み続けたい、どちらかと言えば住み続けたいと考えている市民の割合)	79.3%(R2)	▶	95%

概ね順調に進んでいます。

大山と鶴巻温泉駅を結ぶバスの運行など、自治会、商店会等と連携し、温泉地としての魅力を生かした駅周辺のにぎわいづくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B) / (A)	達成状況	R3取組み実績等
鶴巻温泉年間観光客数	弘法山公園の観光資源としての価値を最大限引き出し、東海大学前駅、秦野駅周辺を含めた地域活性化に向けた魅力あるまちづくりを目指す	180,977人	173,950人	122,218人	70.3%	C	<ul style="list-style-type: none"> 大山と鶴巻温泉駅間のバス運行に合わせ、北口駅前広場のみに実施していた誘客イベントの南口への拡充 ※ 新型コロナウイルスの拡大により観光需要が落ち込んだため実績が伸びなかった
弘法の里湯年間利用者数	鶴巻温泉街の観光振興と地域活性化を図る	153,191人	147,243人	110,461人	75.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理 名水はだの富士見の湯との連携サービスの実施

やや遅れています。

駅利用者の利便性や安全性を高めるとともに、大学等と連携し、多くの学生が集まる駅という特色を生かしたにぎわいづくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B) / (A)	達成状況	R3取組み実績等
学生と連携した商店街イベントの参加者数	商店街と学生が連携したイベントの実施によるにぎわい創造を推進する	7,700人	7,100人	0人	0%	D	※ 新型コロナウイルスの拡大によりイベントが中止となった
東海大学前駅の乗降者数 (1日平均)	東海大学前駅周辺のにぎわい創造による乗降者数の増加を図る	38,000人	38,000人	24,878人	65.5%	C	※ 新型コロナウイルスの拡大により東海大学がリモート授業を実施するなど学生の乗降者数が減ったと想定される

順調に進んでいます。

良好な市街地形成に加え、まちの中心として発展した歴史や湧水、文化、桜並木などの地域資源を生かしたにぎわいづくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
震生湖年間観光客数	震生湖の魅力を磨き上げ、秦野駅からのハイカー等を増加させることで駅周辺のにぎわいにつなげる	40,668人	39,089人	75,594人	193.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・秦野市区域側の散策道の整備 ・憩いの場の快適な環境の維持 ・100周年記念事業について庁内プロジェクトチームの発足 ※ 近年のアウトドア志向や健康志向が高まっていることに加え、新型コロナウイルスによる三密を回避する行動変容が更に後押しになったと想定される
弘法山公園年間観光客数	秦野駅と鶴巻温泉駅、東海大学前駅を結ぶ周遊観光拠点として、世代を問わず低山登山やハイキングを楽しめるよう、桜や展望台、ハイキングコースなど観光資源の適正な維持管理や、弘法山周辺の活性化に資する取組みを推進する	358,295人	344,382人	771,321人	224.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査を目的として弘法山マルシェ及び民間団体による桜と紅葉の植樹 ※ 近年のアウトドア志向や健康志向が高まっていることに加え、新型コロナウイルスによる三密を回避する行動変容が更に後押しになったと想定される
名水はだの富士見の湯年間来訪者数	弘法山公園の観光資源としての価値を最大限引き出し、東海大学前駅、秦野駅周辺を含めた地域活性化に向けた魅力あるまちづくりを目指す	79,489人	76,403人	76,832人	100.6%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理 ・弘法の里湯との連携サービスの実施

概ね順調に進んでいます。

表丹沢や渋沢丘陵への玄関口として多くの登山者やハイカーが訪れるため、商店会や関係団体と連携し、まちの魅力発信とにぎわいづくりを推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B) / (A)	達成状況	R3取組み実績等
頭高山年間来訪者数	にぎわいの創造につなげるため、ハイカーや観光客が快適に過ごせるようハイキングコースなど観光資源の整備や維持管理に努める	7,994人	7,684人	8,072人	105.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> 修景整備員などの作業による快適な観光地環境の維持 休憩広場前の遊休農地を活用した菜の花の栽培 ※ 近年のアウトドア志向や健康志向が高まっていることに加え、新型コロナウイルスによる三密を回避する行動変容が更に後押しになったと想定される
大倉地区年間観光客数	表丹沢魅力づくり構想のもと、表丹沢において気軽に山歩きが体験できる環境整備を進め誘客促進を図る	345,584人	332,165人	365,074人	109.9%	A	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットやホームページを活用した山岳ハイキングコースの情報発信 ※ 近年のアウトドア志向や健康志向が高まっていることに加え、新型コロナウイルスによる三密を回避する行動変容が更に後押しになったと想定される
秦野丹沢まつり来訪者数	「山に親しむことができる祭り」として山開き式やイベントを実施する	58,262人	56,000人	0人	0%	D	※ 新型コロナウイルスの拡大によりイベントが中止となった

市による達成状況の総括 **概ね順調に進んでいる**

重要業績評価指標(KPI)10項目のうち、A評価(5事業)及びB評価(1事業)の合計は、6事業(60%)でした。

また、C評価となった2項目を含め、人が集うイベントや対面で行う事業の中で、新型コロナウイルスの拡大により中止等を余儀なくされたことで達成率に影響が生じた項目が5項目ありますが、目標値を大きく上回る実績となった事業も多く、にぎわい創造推進への取り組みは概ね順調に進んでいます。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- 観光地別観光客数の集計方法について、今後の施策を検討するうえにおいても、より正確な数値を把握するための手法の導入が必要です。
- 学生と連携した取り組みの推進では、インターネット上で様々な活動をしている学生もいるため、ICTを活用した学生連携手法の導入が期待されます。
- 「駅から歩いて行ける低山」があることは秦野市の大きな魅力です。未病やウォーキングなどの健康施策とも連携することで、更なる魅力発信及び魅力向上につながることを期待します。
- 「にぎわい創造」の観点からは、駅の乗降者数や観光客数に加えて「商業活性化の度合い」を測る指標の設定が望まれます。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

新 東名高速道路の開通を本市発展の絶好の機会と捉え、産業・観光振興の両面から最大活用を図るとともに、国道246号バイパスの早期全線事業化・整備の促進に取り組んでいます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 年間観光客数	4,472,000人	▶	4,652,000人
.....			
■ 観光客の年間消費額	59億1,800万円	▶	61億5,700万円

概ね順調に進んでいます。

表丹沢における農林業、観光、文化、歴史、スポーツなど、広範な分野の地域資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やし、本物の魅力を見つけ出せる表丹沢とすることにより、交流人口の増加と地域活性化を推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
表丹沢の魅力発信WEBサイトへの年間アクセス件数	本市の「山旅」スポットを紹介するWEBサイトの運営	88,200件	79,800件	90,961人	114.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「山旅」に関する旬な情報の発信 ※ 近年のアウトドア志向や健康志向が高まっていることに加え、新型コロナウイルスによる三密を回避する行動変容が更に後押しになったと想定される
表丹沢野外活動センター年間利用者数	青少年の育成活動や里地里山保全活動を中心とした利用のほか、更なる活用を促進する	17,000人	13,000人	4,419人	34.0%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・親子キャンプ教室、木工教室、炭火クッキングと炭づくり教室等のイベントの開催 ※ 新型コロナウイルスの拡大により団体利用が減少し個人利用が増加した
ヤビツ峠レストハウス年間利用者数	森林、里地里山、観光の連携事業を展開するための拠点施設として、交流人口の増加と市内消費を生み出し、地域所得の向上や観光振興、アウトドア活動やグリーンツーリズムが盛んな地域イメージの確立を図る	18,987人	18,250人	14,185人	77.7%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設のPR及び地域一体の観光振興を目的としたアウトドアイベントの開催

遅れています。

新東名高速道路等のネットワークや地域特性を生かした新たな雇用の創出につながる周辺への企業誘致を推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
新規立地及び施設再整備企業数(企業誘致条例の優遇措置適用企業数)(年間)	本市の地域特性を生かした企業誘致及び市内既存企業の施設再整備を図る	2社	2社	0社	0%	D	<ul style="list-style-type: none"> ・県、金融機関と連携した情報収集 ・制度の周知 ※ 新規立地及び市内移転等について、支援条件を満たす事業者がいなかった(投下資本額3億円以上、新規市内在住者雇用5名以上など)

遅れています。

スマートインターチェンジから市街地へのアクセス性を高めるなど、新東名高速道路開通に伴う新たな人の流れを支えるネットワーク形成を推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
構想路線(都市計画道路 戸川堀山下線(仮称))の整備進捗状況 ※「都市計画道路 菩提横野線(1期区間)」	新東名高速道路の供用開始に伴い、SICから中心市街地へのアクセス性を高める	100%	5.0%	1.7%	34.0%	D	<ul style="list-style-type: none"> 菩提横野線整備のための測量委託 関係機関との協議 ※ 関係機関等との協議に伴う事業計画の見直し等により、1期工区について令和6年度から令和9年度へ完成予定を変更した

順調に進んでいます。

県、周辺自治体と連携し、国道246号バイパスの建設促進や未事業化区間の早期事業化を促進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
早期全線事業化・整備の促進に係る要望回数	246号バイパスの建設促進や未事業化区間の早期事業化に向けた国県等への要望を行う	4回	4回	4回	100.0%	A	<ul style="list-style-type: none">・国道246号バイパス建設促進協議会への要望・国、県への要望

市による達成状況の総括 **やや遅れている**

重要業績評価指標(KPI)6項目のうち、A評価(2事業)及びB評価(1事業)の合計は、3事業(50%)でした。

また、D評価となった項目については、既に計画の見直しなどの対応がとられていますが、新たな計画等に遅れが生じることがないよう、適切な進捗管理と事業執行に努めます。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- ❑ 企業の新規立地及び施設再整備への支援制度は、周知不足により企業の活用につながっていないことが懸念されるため、より効果的な周知が必要です。
- ❑ 表丹沢野外活動センターは、表丹沢魅力づくり構想を推進するうえで重要な施設であり、令和5年4月から、指定管理者による施設の特色を生かした管理・運営に移行することで、利用者数の回復や増加が期待されます。
- ❑ 道路や土地の整備など、長期に渡り段階的に進める必要がある事業については、段階に応じた進ちょく状況を、より適切に評価する指標の設定が望まれます。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

新

型感染症の収束を見据え、市民の「健康と医療」、「日々の暮らし」、「地域経済」を守る3本柱での対策を充実させるとともに、スマート自治体への転換やデジタル化を推進し、新たな日常の創造に取り組めます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)

	R元(2019) 現状値		R7(2025) 目標値
■ 標準財政規模に対する実質収支と財政調整基金現在高の割合(適正な実質収支比率及び財政調整基金現在高比率の確保)	14.2%	▶	15.0%
.....			
■ 各種手続のオンライン化率	34.0%	▶	100%

順調に進んでいます。

感染症から市民の健康を守るとともに、新たな日常における日々の暮らしや地域経済を守る施策を推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)/(A)	達成状況	R3取組み実績等
工業統計調査における、従業員4人以上の事業所の1年間の製造品出荷額等	新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を踏まえ、平成25年度現状値と同額以上を目指す	4,402億円	4,402億円	5,785億円 (R元実績)	131.4% (R元実績比)	A	<ul style="list-style-type: none">企業の事業継続を支援するための取組みを実施利子補給を拡充支援するとともに信用保証料を補助

概ね順調に進んでいます。

あらゆる市役所業務でのICTの積極的活用により、スマート自治体への転換やデジタル化を推進しています。

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B)／(A)	達成状況	R3取組み実績等
市ホームページへの年間アクセス件数	市民との情報共有や市のPRを図るため、閲覧性や検索性の向上と魅力的な内容の充実を図ることによるアクセス数の増加を目指す	845万件	780万件	1,352万件	173.3%	A	<ul style="list-style-type: none"> • 閲覧性や検索性の向上 • タイムリーな情報提供
ICTの活用により削減された職員の事務作業時間(累計)	定型的な業務に対して、業務プロセスの効率化、非効率な業務時間の短縮等によるコスト削減などを目的に、RPAによる業務自動化を導入する	7,350時間	600時間	451.6時間	75.3%	B	<ul style="list-style-type: none"> • RPAの試験導入及び効果検証を行い、4業務にRPA実行環境を整備
LINE友達登録数	防災情報や感染症関連情報イベント情報など、緊急情報や暮らしに役立つ情報を発信し、市民の情報取得の利便性向上を図る	21,000人	13,000人	20,943人	161.1%	A	<ul style="list-style-type: none"> • 導入の趣旨に沿った運用で迅速な情報提供を実施

市による達成状況の総括 概ね順調に進んでいる

重要業績評価指標(KPI)4項目のうち、A評価(3事業)及びB評価(1事業)の合計は、4事業(100%)だったため、施策は概ね順調に進んでいます。

外部評価 市による達成状況の総括は妥当です

- ICTを活用した事務作業時間の削減について、企業や教育機関では、会議に要する業務にICTを積極的に活用して大きな成果を上げているので、オンライン会議や資料データの事前配付などへの積極的な取組みが望まれます。
- ICTの積極的な活用は、職員の働き方改革や女性の登用等にも効果が期待できるため、様々な施策や業務においてICTを積極的に活用することが望まれます。
- 「新たな日常創造プロジェクト」では、健康、教育、地域経済や「にぎわい創造」など大局的な視点から、施策の質的転換や劇的な変化も含めた展開が望まれます。
- 「新たな日常創造」に財政指標を設定することは、安定的な市民生活を確保し続けるための財政的な備えに対する評価として理解しますが、設定の趣旨や目標達成による成果を市民に分かりやすく説明する工夫が必要です。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

本市に多くの人の流れを呼び込むことが期待される基本目標3と基本目標4を組織横断的に進め、「住みたい」、「働きたい」、「何度でも行ってみたい」につながる「関係人口」を創出・拡大させることにより、地域経済の活性化を図るとともに、移住・定住人口の増加につなげます。

実現すべき成果に係る数値目標(KGI)



重要業績評価指標(KPI)の達成状況

KPI	主な内容	最終目標値 (R7)	R3目標値 (A)	R3実績値 (B)	R3達成率 (B) / (A)	達成状況	R3取組み実績等
住宅施策を活用した年間移住世帯数	若年世帯等への住宅購入補助、既存施策と連携した移住・定住希望者への積極的な情報提供等により、人口減少の抑制を図る	5世帯	5世帯	7世帯	140.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・移住・定住パンフレットの作成 ・はだの丹沢ライフ応援事業の制定

市による達成状況の総括 **順調に進んでいる**

重要業績評価指標(KPI)1項目の令和3年度の達成率が140%となったため、施策は順調に進んでいます。

外部評価 **市による達成状況の総括は妥当です**

- KPIの達成状況に加え、令和4年度からは新たな住宅施策による社会増に取り組んでおり、今後の更なる成果が期待されます。
- 秦野市の顕在的な魅力と潜在的な魅力を多角的に集約し、市内外に発信することが重要です。また、庁内横断的な取組みを推進するとともに、産学官の連携も視野に入れた施策の展開が望まれます。

1. 総合戦略の概要

2. 評価の趣旨及び方法

3. 具体的施策の評価

基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト

基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

基本目標5 新たな日常創造プロジェクト

横断プロジェクト 移住・定住活性化

4. 外部評価の総括

令和4年 月 日()に、秦野市行財政調査会から、令和3(2021)年度外部評価として、次のとおり市長への報告がありました。

5つの基本目標と1つの横断プロジェクトの達成状況に対する市の総括は妥当であり、令和3年度の実績は概ね順調に進んでいると評価します。特に、本市人口の社会増を目的とした移住・定住政策や、水とみどりを育む取組みに関する指標が良好に推移しており、一定の成果が出ているものと評価します。

一方、目標に対してやや遅れが見られる「地域特性を生かした企業誘致の推進」は効果的な制度の周知が、また、「構想路線の整備状況」は新たな計画に沿った適切な事業の執行と進行管理が望まれます。

新型コロナウイルス感染症の長期化により、市民生活や地域経済に様々な影響が生じる中、今後も社会の変化に適応した取組みやデジタル化の推進により、市民の「健康と医療」、「日々の暮らし」、「地域経済」を守る施策の充実に期待します。

また、新型感染症はネガティブな影響だけでなく、「都心からのアクセスの良さ」や表丹沢をはじめとする「混雑と密集が避けられる多様な山岳・里山アクティビティフィールド」など、本市が有する様々な魅力の再発見というポジティブな影響も認められるため、様々な影響を適切に捉え、施策に効果的に生かすための検討が必要です。

KPIは、施策の進捗よく状況を客観的に評価し、本来の目的や最終的な目標(KGI)の達成に向けて進行管理するためのツールです。そのため、施策全体を常に大局的・客観的にとらえながら、毎年度の効果検証を踏まえた不断の見直しを続けることで、目標の達成に向けた施策を着実かつ柔軟に推進することが重要です。

また、指標の設定にあたっては、事業の実施回数や参加者数などの定量的な面だけでなく、事業の質の向上や市民の意識の高まりなどの定性的な面も定量的に評価するための工夫が必要です。

今後も第2期総合戦略と総合計画前期基本計画に掲げた施策を一体的に推進し、PDCAサイクルを重視した効果検証を行いながら、進行を適切に管理することで、目指す都市像「水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市(まち)」の実現に向けた展開に期待します。